

第561号



橋木村公民館：長野県下伊那郡橋木村6664



発行日 2015年12月16日
発行責任者 橋木村公民館長 穂原美穂
編集責任者 公民館編集部 仲田久志
印刷 龍共印刷株式会社

第二十八回 棕鳩十夕やけ祭
棕鳩十記念館・図書館長 大原文男

十一月二十一日(土)に第二十八回「棕鳩十夕やけ祭」が、福祉センターにおいて開催されました。今年も橋木第一小学校合唱部のみさんの美しい歌声で開会式が始まりました。第二十八回読書感想文コンクールは、小学生から一般まで五〇五点の応募があり、栄えある「棕鳩十賞」に橋木村からは村澤和歩さん(第一小一年)と田中詩野さん(橋木中二年)が受賞されました。また松下陽香さん(第二小六年)が「優秀賞」の栄冠を手に入れました。おめでとございませう。授賞式では、代表して三名の方に感想文を発表していただきました。また松下陽香さん(第二小六年)が「優秀賞」の栄冠を手に入れました。おめでとございませう。授賞式では、代表して三名の方に感想文を発表していただきました。

「赤い箱車」とは何でしょうか。「小林千代男は、わたくしが生まれた時から十五才の時まで、わたくしの家で働いてくれた男でした。小林は赤ペンキをぬったきれいな箱車をこしらえました。その箱の中に黒い皮コンニャクやイモコンニャクを売りに行くのです。この赤い箱のせがれ、これが「赤い箱車」です。「その小林の赤い車のあとさきになって、いつも一羽のカラスがついてくるのでした。小林がコンニャクをおとす上にとまって、カアワカアワと鳴いたり、あるいは小林の肩ののっかっておともをたたりするのです。」

『少女』 掲載作品
棕鳩十顕彰会 久保田 毅

「赤い箱車」とは何でしょうか。「小林千代男は、わたくしが生まれた時から十五才の時まで、わたくしの家で働いてくれた男でした。小林は赤ペンキをぬったきれいな箱車をこしらえました。その箱の中に黒い皮コンニャクやイモコンニャクを売りに行くのです。この赤い箱のせがれ、これが「赤い箱車」です。「その小林の赤い車のあとさきになって、いつも一羽のカラスがついてくるのでした。小林がコンニャクをおとす上にとまって、カアワカアワと鳴いたり、あるいは小林の肩ののっかっておともをたたりするのです。」

「赤い箱車」とは何でしょうか。「小林千代男は、わたくしが生まれた時から十五才の時まで、わたくしの家で働いてくれた男でした。小林は赤ペンキをぬったきれいな箱車をこしらえました。その箱の中に黒い皮コンニャクやイモコンニャクを売りに行くのです。この赤い箱のせがれ、これが「赤い箱車」です。「その小林の赤い車のあとさきになって、いつも一羽のカラスがついてくるのでした。小林がコンニャクをおとす上にとまって、カアワカアワと鳴いたり、あるいは小林の肩ののっかっておともをたたりするのです。」

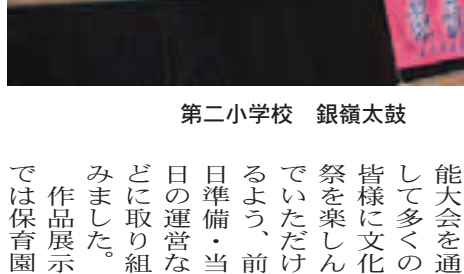


小林は毎朝決まった時間に私の家にくるので、私は小さいおだんごをこしらえてカラスを待つようにしました。自分の手から食べさせたかったので、毎朝毎朝くりかえして



飯野和好さん講演

田中さんは、この作品のもつ意味に深く打たれ、「私は戦時中の日本において、このような犬と人間の悲しくて美しい物語が本当にあつたことを信じている」と、感想を記しています。三時からは飯野和好さんの記念講演会とおつと痛快絵本読み語りの旅でい！橋木の宿」がありました。おなじみの「ねぎぼうずのあさたろう」では、股旅



第二小学校 銀嶺太鼓

学校や各分館、各クラブ等の力のこもった作品が多数展示され、それぞれの団体の日頃の活動の成果が多くの人々の目を惹きつけてくれました。芸術大会は常連の皆さんだけでなく初出場や他と共演する団体もあり、それぞれがさまざまな趣向により会場を盛り立ててくれました。最終日はあいにくの雨となりましたが、作品展示・芸術大会には三日間で延べ二〇〇〇人近くの方にお越し

姿の飯野さんが、手作り三味線の弾き語りを熱演、まるで時代劇の舞台を見ているようで、会場は大いに盛り上がりました。飯野さんのおはなしと読み語りに魅了された一時間半の講演会でした。また、今年も夕やけ祭特別展として、棕鳩十記念館ギャラリーでは「林湊とどろぶ彫刻展」を開催しました。棕文学でおなじみのシカヤツキノワグマも登場。癒し系の猫の彫刻も保育園児に大人気でした。棕先生が提唱した「母子の二十分間読書」の活動は、このような形で受けつがれています。最後になりましたが、「夕やけ祭」に参加して盛り上げていただいた皆さん、実行委員をはじめとする関係者の皆さんに心からお礼を申し上げます。

十一月七日・八日の二日間(作品展示は十一月六日より三日間)、恒例の橋木村総合文化祭が、中央社会体育館周辺を会場に開催されました。作品展示には三十八団体、芸術大会には十五団体、いいもの物産市には三十六団体という多くの皆様に参加していただくことができました。

「あこの時」年を重ねると一年が心穏やかに生活できたらと願うのですが、フランスでのテロ事件など痛ましい事件が続き心が乱されます。今年もあとわずかになりましたが、平成二十七年はみなさんにとって良い年になったでしょうか。年末や年度末になると「画竜点睛」という言葉が頭をよぎります。この言葉は物事を完成させるには最後の仕上げが大切だという例えです。「晴」というのは瞳のこと



# 第二十八回 棕鳩十賞読書感想文コンクール 優秀賞作品発表



## 棕鳩十賞 「かば森をゆく」

喬木第一小学校 一年 村澤和歩



ぼくは、はじめにこのおはなしをよんだとき、しずかなかわのなかでのんびりして、どんなどんなけだものがやってきても、おきなからだをどかしてゆずってあげるかばはやさしいとおもいました。かばは、ゆつくりでのろまだからほかのどうぶつたちからいじわるをされていました。もしもぼくが、ほかのひとたちに「ばか。」なんていわれたら、

村澤和歩

かげでかばはころがほつとしたとおもいました。あるひ、かばのもりにくるひょうがやってきました。ぶつたちをかたっぱしからたべていました。もりのどうぶつたちは、みんなこわいさきもたつたとおもいました。みずどりさんがかばにいらせにきて、いっぴぎのかばがせんもせんもにせんもいちまんもなまのかばをあつめました。そしてなにかまといっしょにくるひょうをもりからおっぱらいました。ほかのどうぶつたちは、いっぴぎずつだからくろひょうにかてなかつたけ

ど、かばは、なかがいっばいでなまどうしで、きょうりよくしたから、くろひょうをたおせました。ぼくは「おばかなかば。」といわれていたかばが、くろひょうをやっつけることができてうれいす。かばは、ばかにされていたけど、みんなのために、つよいくろひょうをやっつけてくれたからです。かばのおかげで、もりもたのしくなり、ほかのどうぶつたちもかばをみなおしたとおもいます。

かばは、「おばかのかば」ではなくて、やさしくてつよいもりのまもりがみだとおもいます。

り、太郎がけんこつをするまねでおどしつけてもびくともしないで、ウウウウとなつて白い歯をむき出して、かえって太郎たちをおどしつけようとするネコです。少しのすきにえ物をさつととり、ゆつくりと歩きながらどこかへ行ってしまう。ぶちネコはともかしくくてどうどうとしているので、わたしも太郎と太

## 棕鳩十賞 「やねうらのネコ」

飯田市立松尾小学校 四年 小島清弥



## 「やねうらのネコ」を讀んで

わたしの家の近くにのらネコが何びきか住んでいます。その内一びきがとても人なつこくて、出会うとおなかを出してねころがるので、なでたりします。別のネコにはかかっていて金魚をとられたこともあります。夏休みの宿題でこの本を見た時、身近なネコの本だったから読んでみようと思いましたが、

ぶちネコが、一カ月間毎日気づかれないようにえさを運んで、子ネコを育てていたことです。ぶちネコは人間がいてにげたりしないので、ぎやくにぎらぎら光る目でにらみつけていた

郎のお父さんと一しよで「おどろいたやつだな」と思いました。お父さんとおとなりの野田さんははらを立てて、きつねをなをしかけた時は、わたしもつかまればいいなと思いましたが、しかし、牛肉をつけて待っていてかかったのは大フクロウでした。ぶちネコは四、五メートルはなれた茶の木の根もとにしゃがみこんで、じつと様子うかがっていました。とてもこういうのでそのわなにはきけんを感じて、牛肉がおいてあつても手を出さずにいて、すこいなあと思いました。

たぶん、太郎の家にこの物のかつおぶしやひよこがいても、ぶちネコがわなにかかると子ネコがこまり、子ネコを育てるために、わ

賞	氏名	学校名	学年	敬称略	賞	氏名	学校名	学年
棕鳩十賞	村澤 和歩	喬木第一小学校	1年	優秀賞	岩田 遼士	竜丘小学校	2年	
	小島 清弥	松尾小学校	4年		久保 芽生	東京学芸大学附属小金井小学校	3年	
	大崎 逢	福岡市立田村小学校	5年		松下 陽香	喬木第二小学校	6年	
	田中 詩野	喬木中学校	2年		壬生 ころ	喬木中学校	1年	
	山口 真一	長野市	一般		吉田 豊	松川町	一般	

太郎の家の近くに住んでいるぶちネコは、すばしっこくてにわとりとかを毎日とつていきます。太郎のお父さんのリスもとられてしまい、わなをしかけてもつかまりません。一カ月くらいすがたが見えないと思つたら、太郎の家のやねうらにぶちネコと子ネコがいま

ぶちネコが、一カ月間毎日気づかれないようにえさを運んで、子ネコを育てていたことです。ぶちネコは人間がいてにげたりしないので、ぎやくにぎらぎら光る目でにらみつけていた



小島さん発表

のきけんのない家からはなれたところに、えさを取りに行つたと思いましたが、最初は悪いネコだと思つていたので、子ネコたちを大事に思う気持ちがたつてきました。いろいろときけんはあつたけど、子ネコたちのためにがんばるぶちネコは、とても強くてかしくくていいなあと思いました。ネコにかぎらず、お母さんはとも子ども思いなのが分かりました。

もしかしら、この前うちの金魚をとつていったネコも、どこかで子ネコを育てているんじゃないかなあと思いました。次来たらそのネコに話しかけてあげたいなあと思いました。



美しい歌声で開会行事に花を添えてくれた喬木第一小学校合唱部のみなさん



棕鳩十賞 「片耳の大シカ」 理論社



たかぎ あい

この話に出てくる大シカは、すっかり狩人のやり口を覚えてしまった大将だ。四、五年前に鉄砲で撃たれて片方の耳を失っていることから、「片耳の大シカ」と呼ばれている。

主人公と、シカ狩り名人の吉助おじさん、次郎吉さんは、この片耳の大シカをねらっている。主人公はおじさんにシカ狩りに来るように手紙をもらって、一緒についてきたのだ。おじさんはきつと自分のすごいところを見せてやろうと楽しみにしていたのだろう。この日も半日以上山の中を歩き回り、三人で、作戦を実行しようとした。

「ほくたちは、どのようにして歩き、どうして、そこまで、命が助かってたのかわからぬ。」という主人公の言葉からも、風におそわれ、三人の体は、必死でほらなまでたどり

着いたことが分かる。ほらあなたには、三十頭近いシカと十五、六頭のサルが集まって体をすりあっていた。動物たちは敵である人間が入ってきたら、攻げきするのだろうと思った。が、何もせずにただ静かにじっとしているだけだった。

この話の中で一番私の心に残った場面は、三人がシカの毛皮で温められるところだ。まさか人間が、えもいもないシカにとびこんで、体を温めてもらうなんて、人間よりも優れている。そして、動物にも人間と同じように優しさがある。この話の三人のように、人間が動物に助けられることもあるのだ。作者は、作品を通して、人間も動物も優しさを持つことが大切だということを見せてくれたのだと思う。

やがて、三人は眠りから覚め、次郎吉さんがシカを撃とうとする。その時主人公は、

### たかぎ俳句クラブ 霜月旬会

松茸の香りゆたかにゆげ膳 田中 君子

秋雨に花びらひとつこぼれゆく 村山たか子

星月夜ユーモレスクの調べかな 松葉 孝子

吾亦紅百寿の女恥ぢらひぬ 秦 恭子

乙女瀧飛沫に光る紅葉かな 小林 カツ

公が、

「あつ！よしなよ、次郎吉さん。あの片耳の大シカのために今日は命が助かったのじゃないですか。」

「あつ！よしなよ、次郎吉さん。あの片耳の大シカのために今日は命が助かったのじゃないですか。」

最近大雨や噴火のニュースを見た。人間はテレビなどで情報を知ることができているが、動物たちは自然の音などを聞いて、危険を知る。大自然の中で生き抜く力は、人間よりも優れている。そして、動物にも人間と同じように優しさがある。この話の三人のように、人間が動物に助けられることもあるのだ。作者は、作品を通して、人間も動物も優しさを持つことが大切だということを見せてくれたのだと思う。

廃屋の柿の赤さや小鳥群る おさなごの拾ひし紅葉掌にあふる

橋と橋つなぐ岸辺や草紅葉 山深きダム湖を染めて照紅葉

モネの画に秋日おしみなく映ゆ 庭手入れ色づく木々の粧ほへり

菊展や肩越しに見る新品種 光りつつ駆けゆく子等や霜の朝

小春日や老の心の吹きだまり 落椿音なく闇の深みゆく

とめどなき甕の鈴虫母の通夜 柘榴の実柄杓とも化すおままごと

砂場 文子

原 美恵

### 第33回ふるさとづくりフォーラム

#### たかぎ村 再発見

## 「いいもの」「いいところ」「うまいもの」大募集!

ふるさとづくりフォーラム実行委員会では喬木村に關係する皆さんから、喬木村の良いものを大募集します。皆さんご存知「おいしいイチゴ」から、私しか知らない、地区のみなさんしか知らない・・・というようなめずらしい(レア)ものまで何でも自由にお寄せください。

「たかぎ」といえば？  
おすすめのおみやげは？  
「たかぎ」自然がいっぱい  
きれいな景色ってどこ？

【応募方法】  
「おすすめのもの」と「おすすめの理由」を1月6日(水)までに教育委員会事務局までお寄せください。  
(様式は自由) F A X : 33-3682

第33回ふるさとづくりフォーラム  
平成28年2月14日(日)開催  
※フォーラムはだれでも参加できます

## 第三回公民館平和学習会 開催される

今年度第三回目の公民館平和学習会が、去る十一月十五日(日)、講師に県立歴史館の青木隆幸先生をお願いして「空から見た戦争―零戦パイロット原田要の戦場―」というテーマで行われました。

はじめに青木先生のご尽力で上映可能となったドキュメンタリー映画『元零戦搭乗員 原田要の一世紀 命の軌跡』を見せていただきました。

映画は、長野市在住で今年九十九歳になられた原田さんの証言を映像にしたものです。

パイロットにあこがれ、霞ヶ浦航空隊へ入隊し首席で卒業した原田さんは、空母「蒼龍」の乗組員として真珠湾攻撃に参加、さらにミッドウェー海戦ののち、ガダルカナルでの戦いで被弾し九死に一生を得ます。

原田さんは、まさに太平洋戦争激戦の最前線で、空の上からその実態を見、体験した方です。原田さんは敵機を撃墜させると、初めは安堵、そして優越感、やがて「零戦パイロットは人殺しパイロット」と罪悪感に苛まれるようになります。

原田さんは戦後その重荷を背負いながら平和を追い続けてこられました。

原田さんは戦後その重荷を背負いながら平和を追い続けてこられました。

原田さんは戦後その重荷を背負いながら平和を追い続けてこられました。

原田さんは戦後その重荷を背負いながら平和を追い続けてこられました。



平和学習会(青木先生)

## 編集後記

今年もあとわずかととなりましたが、皆さんにとってどんな一年だったでしょうか。来年は、もっといい年にしたいですね。何か新しい事でも始めてみませんか。季節の移り変わりは早く、

おこすもので、一人ひとりの人間は敵も味方もない同じ人間同士なのだと思いが強く語られていました。今年八月初めに青木先生が原田さんを訪ねインタビューされたとき、原田さんは「自分は、戦争になればみんなが不幸になり、みんなが幸せになることはないと体で覚えた。九十九歳になつて体調も不安定だが、私が空から見た戦争の実態を次の世代が味わうことのないように、私の戦争に参加した罪悪を聞いてもらい、再び戦争を起こさないために、最後に残された平和という贈り物の大切さを次の世代に伝えてほしい。」

最後に青木先生は、戦後七十年の県立歴史館の企画のなかで、原田さんのような語り部の皆さんが口をそろえて言われたことを次のように紹介されました。「今の日本はおかしい。もう一度ちゃんと平和について考えてほしい。七十年前に二度と戦争をしないと誓ったことを忘れないでほしい。」

私たちが原田さんの全身全霊を込められた平和へのメッセージと、その意思を受けとめて広めておられる青木先生の熱意あふれるお話しに、あらためて戦争を語り継ぐことの大切さと平和の尊さを教えられました。

次回、二月の学習会も、青木先生に講師をお願いし、日本が戦争に突入していった一九三〇年代の姿から平和について考えたいと思います。

みなさん、ぜひご参加ください。



編集部が選んだ

# 喬木村2015年のニュース

二〇一五年を振り返ってみると、イスラム国のテロや邦人拉致事件など悲しいニュースが報道されました。今年は戦後七十年の節目の年であり平和な世界を望む気持ちを一層強くされた方も多かったのではないのでしょうか。

スポーツ界では女子サッカーのワールドカップでの準優勝やラグビーワールドカップの優勝候補の南アフリカを破る歴史的勝利など日本代表選手の活躍に大いに沸いた年でもありました。

喬木村の一年は、果たしてどうだったのでしょうか？今年も編集部が選んだ「二〇一五年のニュース」で、村の一年を振り返りたいと思います。

## 村づくり未来委員会 第五次総合計画素案 提言

来年度から始まる第五次喬木村総合計画の素案がむらづくり未来委員会より喬木村計画審議会に提出されました。

リニア・三遠南信時代を見据え、村の将来像を『人が輝き未来につながる美しい郷土』とし、将来像の実現に向けた取り組みに六つの基本目標にまとめ五つのプロジェクトを立ち上げることになりました。

- ・すべての人が生涯にわたり健康で安心して暮らせるむら
- ・住みたいと思える生活環境の整ったむら
- ・環境にやさしく、安全・安心なむら
- ・産業と雇用を交流で生み出すむら
- ・生涯、共に学び、誇りと愛着を持ったグローバルな人材を育むむら
- ・村民と行政がおもいを一つに協働と戦略的経営を進めるむら



### 重点プロジェクト

- ・小さな拠点づくりの推進とネットワークによる交流と創造のプロジェクト
- ・六十分で世界につながる交通網活用プロジェクト
- ・移住・定住促進(たかぎに住もう)プロジェクト
- ・協働・共創推進プロジェクト
- ・ICT活用プロジェクト

## 合唱劇「カネト」 喬木公演

六月二十日(土)、喬木第一小学校PTA、社会教育委員会、公民館共催による合唱劇「カネト」の喬木公演が行われました。



児童、保護者、一般の方々で体育館がいっぱいとなる中、カネト合唱団による素晴らしい合唱劇を観賞しました。

第一小学校五年生の原沙彩那さんもカネトの娘カナを演じ、カネトの生き方、

大きな仕事を成し遂げるための苦労や努力する姿を通して、夢や希望、人間の誇り、そして地域の歴史を知る良い機会となりました。

## 森永卓郎教授による 未来作り講演会

三月二十八日(土)、「リニア中央新幹線・三遠南信自動車道の開通を見据えた村づくり」をテーマに未来作り講演会が開催されました。

講師にはテレビでもおなじみの経済アナリストで獨協大学教授の森永卓郎先生をお呼びし、約三百名の方が耳を傾けました。

未来への村づくりは、いつでも明るくラテン系を目指し前向きに取り組んでいくことが大事だと話されました。

三月二十八日(土)、「リニア中央新幹線・三遠南信自動車道の開通を見据えた村づくり」をテーマに未来作り講演会が開催されました。



## 12回優勝の快挙で新記録達成！ 喬木少年野球クラブ



喬木少年野球クラブは今年、飯田下伊那の各地で行われる十六大会の内十二回優勝と、昨年の九回優勝を上回

り、クラブ発足以来過去最高の記録を達成しました。また、準優勝一回、三位二回、三十七勝五敗と素晴らしい成績でシーズンを終えることができました。

これは保護者や指導者の皆さんと子供たちが一丸となって目標に向かって日々努力したこと、野球だけではなく日常生活まで見直し取り組んだこと、短時間で集中して練習に取り組んだ結果であります。

今後も野球を通して学んだ勝つ喜びや練習で培ったものを様々なことに活かしてほしいと願っています。

## 役場庁舎 増改築工事竣工

昨年十一月より工事を進めてきた喬木村役場庁舎の増改築工事が六月八日に竣工しました。手狭になっていた事務所スペースが広がり、外観も一新されました。

増築部分には、議会機能が集約され、傍聴席も約三十席が確保された議場をはじめ、委員会室も充実し、常任委員会その他、様々な会議等も開催できるようになりました。議場内の机は可動式となっており、議会だけでなく、災害時の対策室としても使用できる機能を備えました。

二階フロアは建設課、高速交通対策課、企画財政課に加え、総務課と本庁舎内に移転された産業振興課が配置されました。



## TKGの証

地域おこし協力隊の下平美鈴さんが村内産にこだわった「たかぎのたまごかけごはんセット」を考案しました。

「喬木」と「卵かけごはん」のアルファベットの頭文字が同じに着目し、通称TKGとなりました。

四角い箱には卵六個、しようゆ一五〇ミリリットル、米六〇〇グラムが入っています。卵は鶏卵品質共励会で最優秀賞を受けたブランドエッグファーム(本社・佐久市)の喬木農場産、しようゆは「マルタカしようゆ」、米ははさかけ米三種で販売直前に精米するのだそうです。

## ふるさとづくり フォーラム

二月十五日(日)に福祉センターと第一小学校体育館を会場に、第三十二回ふるさとづくりフォーラムが開催されました。

今回のフォーラムは、「たかぎ村再発見」たかぎの未来は自分たちの手で」をテーマに、村を今一度見つめ直そうということで、二つの分科会で行われました。

一つは、防災講演会と、むらづくり未来委員会との共催で村づくりについての意見交換をワークショップ形式で行いました。

もう一つは、元気な喬木村をアピールしようと、みんなのでべり＆ゴータンスを踊ってユーチューブで発信しました。みんなで村の将来を考える良い機会になったのではないかと思います。

## たかぎコミュニティ バス運行開始



平成二十五年年度に小さな拠点づくり検討委員会より高齢者数の多い下段地域(阿島区、小川区、伊久間区内の地域)をまわる公共交通の必要性について提言を受け、村では下段地域公共交通実証運行検討委員会を設け、平成二十六年度に検討してきました。

三月には検討を重ねてきた路線図、時刻表について決定をし、五月十一日より実証運行を開始しました。

